

地域医療連携だより

やまびこ

発行日：平成 26 年 7 月 発行：高山赤十字病院 高山市天満町3丁目11番地 TEL 0577-32-1111 発行責任者：地域連携課

高山市三師会合同学術講演会

平成 26 年 6 月 14 日 (土) ひだホテルプラザにて

地域医療支援病院の現状と課題 ～急性期から在宅へ～

高山赤十字病院院長 棚橋 忍

高山赤十字病院は平成23年9月に地域医療支援病院に指定されました。岐阜県で7番目の指定です。

当院は指定以前より当院が置かれている地域性のため、地域に必要とされる医療を行い、医師不足・看護師不足のなか地域医療の支援・確保を行ってきました。地域医療連携を推進するために、平成13年に病診連携室を立ち上げ連携システムの構築、マンパワーの確保を行ってきました。平成23年の指定当初は紹介率60%、逆紹介率30%をようやくクリアしていましたが、昨年は紹介率63.3%、逆紹介率48.7%になっています。この間大型医療機器の共同利用、開放型病床の利用推進、図書室の開放、研修会の開催を地道に行ってきたています。

厚労省は2025年問題の絡みで、多方面から包括的な改革を推進しています。そのキーワードは ①医療機関の機能分化 ②医療機関の連携 ③在宅医療です。②の医療機関の連携をさらに推進するために、厚労省は平成26年度より地域医療支援病院の施設基準の基本である紹介率、逆紹介率の底上げを図って来ています。すなわち

ア) 紹介率：80%以上、又は

イ) 紹介率：65%以上かつ逆紹介率：40%以上、又は

ウ) 紹介率：50%以上かつ逆紹介率：70%以上

です。一方初診患者の数及び紹介患者数にも入っていた救急患者は別評価になりました。また、今後第三者に機能評価を受けることも必要になってきます。

地域連携は紹介率、逆紹介率のみで評価はされるのは本当の姿ではないと感じています。地域にある病院として医療を確保し、医療安全を基本に医療の質を高めていく活動が必要です。今後とも病院が持っている患者情報を積極的に開業医の先生方に提供し、入院治療が必要な患者さんを円滑に受け入れ、病状が安定したらかかりつけ医にご紹介していき、患者さんがかかりつけ医を持てるような環境作りに取り組んでいきます。

今後とも飛騨地域の先生方のご意見、ご協力をお願い致します。



目次

- 高山市三師会合同学術講演会 …………… 1
- 第3回 地域医療連携研修会開催報告 … 2.3
- 第28回ICLSさるぼぼコース開催報告 …… 4
- 第24回ひだ糖尿病コ・メディカルセミナー開催報告 … 4

- 新任研修医の紹介 …………… 5
- 研修・講演・勉強会のご案内 …………… 6
- 平成26年度 第1回地域医療連携検討委員会の報告 … 6
- 編集後記 …………… 6

第3回 地域医療連携研修会開催報告 サイエンス漢方処方セミナー in 高山

平成 26 年 4 月 18 日 (金)



医療法人静仁会 静仁会静内病院院長
井齋 偉矢 先生

1. 「サイエンス漢方処方」とは？

従来、漢方薬を的確に処方するには、漢方医学をある程度学ぶ必要があると言われてきたが、漢方薬という薬物と、漢方医学という現代医学とは異質の概念を分けて考え、漢方薬を現代医学の知識のみで的確に処方する方法論「サイエンス漢方処方」を提案する。漢方薬は、その構造からみると、超多成分の化合物の集合体であり、しかも、それぞれの化合物の量が極めて少ない。この少量乃至微量の多成分が身体に入ると、ある一定の方向性を持った作用を示す。一個では薬物足り得ない化合物が一斉に体内に入るとどうして薬物として作用するのは、長いこと薬理学における難問とされていた。

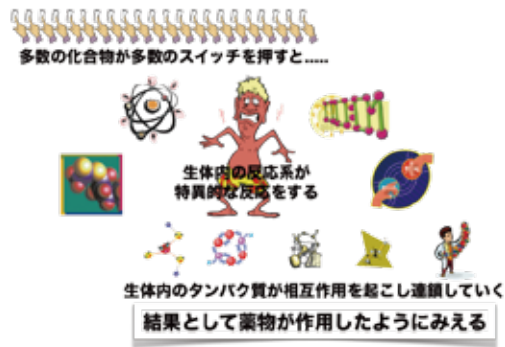
そもそも漢方薬は、その開発過程をみると、新薬と何ら変わらないことが分かる。即ち人体実験を通して、毒性試験、臨床治験が行なわれているので、有効性と安全性は担保されている。わが国独自の発展を遂げたのは、漢方医学ではなくエキス剤の開発である。これによって、新薬と同等の評価を得るための、二重盲検ランダム化比較試験が可能になった。

薬物が作用するというが、単なる化学物質が、体内に入って病気を治しているとは考え難い。そうではなく、化合物の一押しが引き金となって、身体が病気を治すように動くことが、あたかも薬が病気を治したようにみえたに過ぎない。漢方薬のような超多成分薬剤の場合、多数の作用点を軽いタッチで押して行くことになるのであるが、そのような刺激でしか反応しない系統がある。

新薬も漢方薬も開発過程は同じ



多成分に身体が特異的な反応をする



超多成分に反応する系統



それらは、①免疫賦活作用と抗炎症作用、②微小循環障害改善作用、③水分代謝異常改善作用である。これらの系統は新薬には反応せず、超多成分にのみ反応する。漢方薬をこのように捉えることで、漢方医学的思考法から脱却して、現代医学ベースで、漢方薬を純粋な薬物として扱えるようになるのである。

2. がんと漢方

がんの治療法には大別すると aggressive なものと supportive なものがあるが、漢方薬の出番は、現時点では主に抗癌剤の副作用軽減対策がメインとなる。



免疫療法としては、明らかにがんが形として残っている場合には、それを消滅させるまでの力は漢方薬にはない。むしろ緩和医療の中で、患者さんの ADL を少しでも向上させるのに役立つ可能性がある。

① 消化器系の副作用対策

- 1) 悪心・嘔吐：茯苓飲
- 2) 口腔粘膜炎症：半夏瀉心湯、黄連解毒湯
- 3) 下痢：半夏瀉心湯

② 末梢神経障害

- 1) 上半身：桂枝加朮附湯
- 2) 下半身：牛車腎気丸

③ 血小板減少

- 1) 加味帰脾湯

④ 食思不振

- 1) 六君子湯
- 2) 補中益気湯

⑤ 免疫能低下

- 1) 十全大補湯：肝細胞がんの腫瘍発生抑制効果
- 2) 人參養栄湯：肺転移抑制効果

第28回 ICLSさるぼぼコース開催報告

平成26年6月14日(土)

手術室看護師 中丸 義則

平成26年6月14日に、第28回 ICLS さるぼぼコースを開催しました。

ICLSとはACLSの基礎コースで『突然の心停止に対する最初の10分間のチーム蘇生を習得する為』の日本救急医学会認定の1日完結コースです。コースの流れは、午前にBLSの手技、AEDの使用法、気道管理の方法、モニターによる致死的不整脈の波形診断、除細動器の使用法などを習得し、その上で、午後から実際にチーム蘇生の実技を行います。

飛騨地域では高山赤十字病院、久美愛厚生病院、飛騨市民病院の3病院で各1回ずつ、年に3回開催しており、28回目を数えた今回は、医師14名、看護師38名、救命士・救急隊員20名、臨床工学技士1名、薬剤師1名、理学療法士1名、計75名(うち受講30名)が参加しました。その中で今回は、インストラクターとして地域のスタッフにもご協力頂きました。

除細動など普段は医師が実施する処置や、コメディカルが担当する事が多い処置などを受講生全員が体験する事で、それぞれの立場での行動を学ぶ事もできます。

医療機関に勤務している以上、誰もが遭遇しうる心停止に対して、より多くの方が共通の知識を持つ事により、慌しい蘇生の場面でも職種を越えて阿吽の呼吸でチーム蘇生ができます。

受講に関しても、地域のスタッフ枠を引き続き設けていきたいと思っておりますので、興味のある方は是非ご参加下さい!!



第24回 ひだ糖尿病コ・メディカルセミナー開催報告

平成26年6月21日(土)

糖尿病看護認定看護師 芥川 かおり

今年も当院講堂において、ひだ糖尿病コ・メディカルセミナーが開催されました。

一般演題では、坂下病院よりCDE岐阜の研修から認定試験までの取り組みを通して、東濃支部の専門医が中心となり、糖尿病医療の質向上のため地域療養指導士育成の報告がありました。糖尿病人口は増加しており、それを支える医療者も患者のエンパワメントを引き出すために、常に、最新知識を得、療養指導方法を学ぶ必要があると感じました。

下呂市金山病院では、合併症の一つである歯周病に視点を置いた食事療法の取り組みが発表され、歯と食事の深い関わり合いを学びました。当院からは足観察の現状から、今後も足病変を予防する教育や支援を行っていくことを報告しました。



特別講演では、帝塚山学院大学・学長・津田謹輔先生から「糖尿病治療における最近の話題」として、治療目標であるHbA1c値の目安や、新薬の使用法・副作用についてお話があり、日々の治療や療養指導に生かせる情報が満載でした。

来年も6月に開催予定です。興味のある方、是非、御参加下さい。お待ちしております。

新任研修医の紹介

4月に7名の研修医が赴任しましたので、ご紹介致します。

- ① 出身地
- ② 興味のある分野
- ③ 診療に対するモットー&自己紹介 など



すぎともゆき
杉 朋幸

- ① 茨城県那珂市
- ② 消化器外科
- ③ 精いっぱい研修に取り組んで参りたいと考えております。趣味は卓球です。宜しくお願ひ申し上げます。



いとうまさや
伊東 政也

- ① 神奈川県横須賀市
- ② 呼吸器、感染症
- ③ 岐阜大学を卒業し、今年4月から高山で2年間研修医としてお世話になることとなりました。日々医学について学びながらも患者さんや、その背景、高山について多くのことを学ばせて頂きたいと思ひます。まだ至らぬ点が多いとは思ひますが、よろしくお願ひ申し上げます。



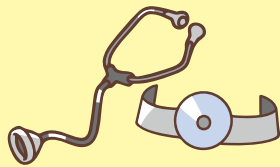
にしわきたかゆき
西脇 崇裕貴

- ① 岐阜県大垣市
- ② 外科、脳外科
- ③ 小学生の頃高山に住んでいたこともあり、ゆかりある地で社会人1年目をスタートできたことをうれしく思ひています。2ヶ月ほどたった今でも分からないことが多く、周りのみなさまには迷惑かけることが多いですが、至らないことありましたら、ご指摘いただけたら幸いです。初心を忘れず頑張っていると思ひてお願ひしますので、よろしくお願ひします。



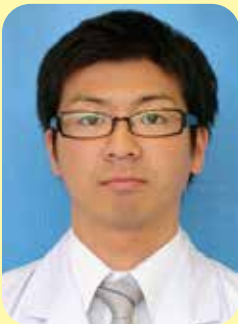
おおむらかずひさ
大村 一史

- ① 岐阜県岐阜市
- ② 救急科
- ③ 一期一会



もりちさ
森 千紗

- ① 岐阜県高山市
- ② 内科、小児科
- ③ 岐阜大学を卒業してきました。たくさんの人と関わりながら成長していきたいです。よろしくお願ひします。



くまがい のぶとし
熊谷 信利

- ① 岐阜県土岐市
- ② 脳神経外科、外科
- ③ 研修医1年目、熊谷信利です。岐阜大学出身です。高山での研修を通して、多くのことを学ばせていただきます。至らない点は多々ありますが、御指導の程、宜しくお願ひ致します。



たぐち きょうへい
田口 恭平

- ① 岐阜県岐阜市
- ② 整形外科、内科
- ③ 自治医科大学を卒業して、高山赤十字病院で研修をさせて頂いています。色々な先生のやり方を教えてもらって、2年後には自分のスタイルを持てる様になりたいと思ひています。よろしくお願ひします。



研修・講演・勉強会のご案内

- ・「スキンケア勉強会」 H26年9月13日(土) 高山赤十字病院 本館3階 講堂
- ・「第16回 地域連携症例検討会」 H26年9月17日(水)19:30より 高山赤十字病院 本館3階 講堂
- ・「医療安全講演会」 H26年9月18日(木)18:00より 高山赤十字病院 本館3階 講堂
- ・「飛騨地域緩和ケア研修会」 H26年9月27日(土)・28日(日) 高山赤十字病院 本館3階 講堂
- ・「第10回市民公開講座」 H26年10月4日(土)14:00より 高山赤十字病院 本館3階 講堂
- ・「飛騨臨床医会」 H26年10月31日(金)19:00より 高山赤十字病院 本館3階 講堂
- ・「第6回飛騨地域緩和ケアセミナー」 H26年12月6日(土)16:00より 場所：高山グリーンホテル

※詳細は、追ってご案内いたします。

平成26年度 第1回地域医療連携検討委員会の報告

標記委員会を5月28日(水)に開催いたしました。

地域医療連携検討委員会は、地域医療機関等からの要請に対応し必要な支援を行えるよう定期的に開催される委員会です。

委員会では紹介率・逆紹介率、地域連携の現状などの業務実績、地域医療支援病院の承認要件の見直しについて報告をいたしました。

意見交換では、平成26年度診療報酬改定に伴い在宅医療等について委員の方から多くのご意見を頂きました。

編集後記

また今年もマイマイガの季節がやってまいりました。歩く道端、洗濯物に我こそはと言わんばかりに、幼虫が大量発生しています。

このマイマイガ、どうしたら駆除できるのか…

私たちが見る、ハトヤスズメは食べないわけではないのですが、圧倒的に数が少ない上に、生息場所が少し違うようです。ではどうしたら駆除できるのでしょうか？

実は、3年ぐらいで終息しているのは、ウイルスが大きな影響しているそうです。3年後にマイマイガの間だけでウイルス感染が広がり死滅していくそうです。

しかし、このマイマイガを駆逐するウイルスにも抗体ができてしまい、さらなる強いマイマイガが生まれるそうです。そしてまた3年後新たなウイルスにより死滅していく。この繰り返しだそうです。このマイマイガ戦争はいつの日か終息するのでしょうか…

医療社会事業課 小 邑 昌 久



日本赤十字社

高山赤十字病院
地域連携課

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

〒506-8550 岐阜県高山市天満町3丁目11番地
TEL : 0577-35-1880 FAX : 0577-32-1165
メールアドレス byoshin@takayama.jrc.or.jp
ホームページ <http://www.takayama.jrc.or.jp/>